

はじめに

英語を始めようと思っても、どうしていいかわからない。何から始めたらいいか見当もつかない。始めたけれど、途中でやめてしまった。本を買ってやってみたけれど、上達した感じがしない、本が積み上がっていただけ。もう歳だから英語をやり直すなんて無理、などなど、悩みを抱えた方が多いのではないのでしょうか。でも大丈夫ですよ。私も20年以上の長いブランクを経て英語をやり直した一人です。46歳から学び直しはじめて、53歳で通訳案内士の資格を取得しました。その私の経験からわかったことがあります。英語は何歳からでも始められて、続ける方法があります。この本を通してその方法をお伝えしたいと思います。

今回、本書で英語の習得法をお伝えしたいと思った理由が二つあります。

一つは、皆さんに英語を習得する過程自体を楽しんでいただきたいという想いです。外国語は難しく、学ぶのが大変だと思う方がいるかもしれませんが、実際には楽しいことがたくさんあります。

例えば私がフランス語を少し学んでいたときのことです。パリに行って、カフェでカフェオレを友達の分を含めて、2杯注文することを目標に頑張りました。ついにパリに着き、カフェに入り、2杯注文できたとき、とてもうれしかったことを覚えています。

話すことは、当たり前のようにできて、実際は必要であるだけでなく、私たちの幸福感と結びついているのだと思います。

また、英語の本を読めるようになれば、さらに楽しんで習得できます。例えば『評決のとき』（ジョン・グリシャム著、英語タイトルは*A Time to Kill*）は、映画を見ても本で読んでも、手に汗握る小説です。アメリカ南部のお話ですが、法と正義、差別問題について考える機会を与えてくれました。また日本とアメリカの裁判制度の違いについても学ぶことができました。

英語の習得法を伝えたいもう一つの理由は、「聞く」「話す」という点で英語をうまく使えないと感じている方が多いと思ったからです。英語の習得という場合、英語の4つの技能、つまり、「聞く」「読む」「話す」「書く」といったスキルをバランスよく身につけることが大切です。「聞く」「話す」で困っている方が、本書で述べる習得法によってできるようになることを実感してほしいのです。

英語の仕事の中で、医療に関連した通訳をしたときのことです。多くの教授の方々には患者と英語で意思の疎通ができますが、実際のケアに携わる看護師の多くは問題を抱えていました。英語でどう言うのかわからない、どう英語で表現してよいかかわからない、などなど。そして、医師の中にも学会のプレゼンは何とかこなせても、質疑応答になると歯が立たないというケースが見受けられました。

こうした医療に携わる人々を含め、多くの日本人は、中学校、

高校、そしてもしかすると大学と、しっかり英語を学んでいるにもかかわらず、英語を聞く、話すというスキルになると呆然としてしまう状態です。「そうした方々に助けとなる方法はないのだろうか？」と英会話講師として教える立場になってからも試行錯誤してきましたが、比較的多くの方が取り組みやすい方法にたどり着きました。後に紹介する方法を、ぜひ試していただきたいと思います。

その方法をお話しする前に、ぜひ覚えておいてほしいことがあります。それは、“建設的な言葉と姿勢”を大事にしてほしいということです。例えば、「いつも何をやってもダメだ」とか、「また失敗ばかりで、もうダメ」とか、そうしたネガティブな言葉や考え方ではなく、代わりに、「きっと次回はうまくいく」とか、「大丈夫」とか、建設的な言葉を自分に言い聞かせるのです。

もちろんうまくいかないことがあると、ガッカリすることもあるでしょう。それは自然なことです。でもその直後は、考え方を転換しましょう。「失敗は成功の母」とよく言いますね。失敗したとしても、やってみたからこそ学べることがありますし、「成功の種」が撒かれているとも言えるのです。掃除機で有名なダイソンの開発者であるダイソン氏は、理想の掃除機が完成するまでに試作機を5127台も作りました。つまり、5126回も失敗したということです。ダイソン氏はそういう失敗を重ねたことで発見があったとおっしゃっています。うまくいかなかったとしても、そ

れを失敗と捉えるのではなく、完成への過程と見ることができますね。英語習得の道もすぐにはうまくいかないこともあります。それも一つの過程で成功へのステップと捉えましょう。この本が皆様のお役に立てることを切に願っています。

では始めましょう！

Where there is a will, there is a way.

(意思があれば道は開ける。)

Good luck!

● 本書の登場人物



日高先生 現役の英会話講師。自身も46歳から英語をやり直した経験の持ち主。



受講生 30代後半の主婦。漠然と「英語をやり直したい」と思っていた中、意を決して先生の下へ。